



No.114

窓の市政

「早期収束を願う」

本町通り商店街が発行する、来年の八重垣神社祇園祭のカレンダーは従来の趣とは異なり、10町内各町の年番時の最高の場面が写真で飾られており、祇園祭の盛況感がページをめくるたびに伝わってまいります。

これも、コロナ禍により、本市最大の行事である神輿の連合渡御が中止となったため、関係者のご苦労により作成されたものであります。年末は、誰もが一年を総括し、成果と反省を踏まえ、来年の抱負や期待に胸を膨らませるもので

すが、今年は、世界すべての人々が新型コロナウイルス感染症に振り回された年であり、今も、第3波が猛威を振るっており、収束のめどはたまたず、来年もさらなる予防策を講じていくことになるでしょう。

新薬やワクチンの開発が、急ピッチで進められているとの報道がされており、希望者すべてが接種できるようにするにはまだまだ先のように、来年の早期収束を全世界が乞い願っています。

社会経済活動の停滞、日常生活での自粛を余儀なくされておりますが、子どもたちも生活面、教育・保育面での規制を被り、長くつらい一年であったことでしょう。

特に日本においては、1年延期された東京オリンピック・パラリンピックの開催の有無に大きな影響をもたらします。東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した時の感動、そして大会の成功裡に向け準備してきた苦勞が報われるためにも、世界に先駆けて予防対策に取り組んでいかねばなりません。

飯高を歩く 檀林とキツネ

匠瑳探訪 175

明治の初めに飯高檀林が廃止され140年余りが経ちました。廃檀時には多くの施設が取り壊されましたが、その後まつられたものに、講堂に向かつて左側の赤い鳥居の稲荷社があります。

昔、檀林に全国から集まった学僧の中に1匹のキツネが化けて紛れ込んでいました。ある時、高いびきをかいて寝ているところを見つかってしまいい、檀林を離れることになりました。友達が別れを惜しみご馳走を送り出してくれましたが、酔ったキツネが目覚ますと、そこは林の中で、土産にもさら



稲荷社に奉納されているキツネ

ったすしだけは本物であったといえます。稲荷社には、このような伝説があります。この話は明治30年代後半に飯高寺が発行した『開運古能葉稲荷大明神の由来』という縁起書にあり、筆者も目にしたこ

とがあります。「橋門伝八」という白キツネはこれの中に登場し、伝八はこの由来から生まれました。『八日市場市の沿革と人物』(昭和32年刊)にこの縁起と伝説「橋門伝八」が掲載されています。飯高寺総門から参道を進むと、飯高城当時の空堀があり、そこに橋の門がかかっています。キツネはその下に住みついていたので、橋門の名が付いたとされます。赤い鳥居をくぐると正面に祠があり、その手前に神の使いのキツネが奉納されています。これは1906(明治39)年に飯高村などの20人が寄進し、当時は毎月22日の縁日と、4月と10月に大祭が行われ信者でにぎわったとされます。鳥居の左側に奉納された絵馬が掲げられ、晩秋の境内には散策を楽しむそれをガイドする人たちの姿が見られました。(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080

文芸コーナー

短歌

依知川雅一 推薦

秋深み柿の葉ひとつまたひとつ

あまた散り敷く路地のかたえに 宇野とし子

娘の仕事テレワークとなり帰郷する

弾みとなりて断捨離はかどる 伊藤 英子

秋の陽にすすきの穂波キラキラと

波間のように風になびきぬ 古谷由美子

遠き日に泊まりし家も人は去り

庭のいちじく蜂の飛び来る 大木 洋一

庭の木に見覚えのある尾羽ふり

深まる秋にじょうびたき来る 鈴木 知子

柚子の木で黄色に変わる実を見つつ

こんなご時世季節変わりか 小川 一夫

亡き父のホームの部屋に残されし

タクシー代の千円札よ 鈴木 志子

川口城司 推薦

幼子の浜辺を駆ける後追ひて

母も裾衣をおさへて走る 渡辺 重雄

湯あがりの夫を拭へばけふ一日

無事につとめを終へし心地す 稲葉 雪子

俳句

高安せい子 推薦

朝日さす母屋のほひ冬が来る

厨ごと済ませて仰ぐ十三夜 大川 宣子

大木の伐られし寺や紅葉濃し

侘助や人気なき方向きて咲く 安藤 建子

手ふれてこぼるる色や秋桜

よろよとウッドデッキにいぼむしり 椎名 晴江

小鳥達木の実ポリポリ御礼鳴き

光瀬甲江子 高木 芳夫

土葬墓地さびれて燃ゆる曼珠沙華

雷雨去り丸くて大きいお月様 伊藤 定子

鬼胡桃利根を流れて九十九里

須貝 玉枝 春日 政彦

川柳

勝又康之 推薦

老犬が爺ちゃん引いて散歩する

痴話げんか犬も食わぬを猫が食べ 佐久間美智子

街は今多彩なマスク目を凝らす

岡田けい子 江波戸京子

掌に乗った仔猫が同年

椿 謹二 老夫婦あれこれこれのこと足りる

横断にマスクかけずに人が避け

宮崎 賢一 鶴澤 澄子

お出かけ着母のお下がり褒められる

安藤 幸恵 石田 津

川口城司 推薦

今年柿皆大当たりうち以外

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班 〒289-12198 匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎73-0080 FAX72-1114



図書館だより

図書館ホームページはコチラ
<https://www.library.sosa.chiba.jp>



●休館日…3日(木)・毎週月曜日 ●年末年始休館日…29日(火)～1月3日(日)
問八日市場図書館☎73-3746(17時まで)

資料の寄贈について

「本を処分したいけれど、もったいないから図書館に寄贈しようかな」——。申し訳ありませんが、図書館では寄贈を受け入れできないものがあります。汚れや破損などがあるもの、出版年から5年を過ぎた資料、百科事典、雑誌、漫画、参考書、ビデオやDVDは受け入れできません。寄贈を受け入れる資料は、市民の著作物や匝瑳市に関する資料、予約の多い本です。不明な場合は、お持ちいただく前にお問い合わせください。

のさか図書館をご利用ください

のさか図書館の蔵書数は、約3万5000冊。八日市場図書館では所蔵していない本もあります。また、八日市場図書館では貸し出し中でも、のさか図書館で貸し出しできる場合があります。ぜひ、のさか図書館に足を運んでみてください。

おはなし会はお休みします

「おはなし会」は当面の間お休みします。再開は、図書館ホームページでお知らせします。

おすすめの本

『リアルサイズ古生物図鑑 新生代編』
土屋健/著 技術評論社

サンタクロースのソリを引くメガロケロス・ギガンテウス、和室でくつろぐスミロドン、ホルンに間違われるアツリア・ヨコヤマイ…。現代の風景に紛れ込んだ古生物をお楽しみください。古生代編、中生代編もどうぞ。

『クリスマスマーケットのふしぎなよる』
たなか鮎子/作 講談社

クリスマスマーケットに出掛けた男の子ヨハンは、ツリーのてっぺんから落ちてしまったお星さまを助けることに…。ヨハンはお星さまを元に戻すことができるのでしょうか。